

■ サポートビジネス I T・生産・物流ソリューション

SENKEN

2014年
(平成26年)

6月30日
月曜日

織研新聞社

社 報



■ オリンパスシステムズ

「MD業務プロセス標準化プロジェクト」各ステップの活動

■第1フェーズ	
業務ヒアリング	・実務担当者インタビュー・現状業務の実態把握
MD業務チェック/ 課題抽出・整理	・MD業務チェックリストを基に原稿業務精度を評価・ MD業務診断まとめ・業務改善点の整理・優先づけ
業務フロー作成	・機能別の業務フロー整備
■第2フェーズ	
業務設計	・標準店舗の設定・標準店のフェイス設計フォーマット 検討・フェイス設計ルールと共有方法の検討

□ バイクルーズグループ

MD業務標準化に向けて 共同プロジェクトを推進

オリンピックシステムズは、バイクルーズグループのMD業務プロセス標準化のプロジェクトに参画している。同グループの「徹底した顧客視点で顧客価値向上させる」経営方針に沿った全社プロジェクトの一環だ。レディス「イエナ・スロープ」(ルードム)、メンズ「4177・バイ・エディフィス」(同)の2ブランドで、第1フェーズの業務ヒアリング、課題抽出・整理、業務フロー作成を終え、6月から標準店フェイス設計、運用ルール検討の第2フェーズがスタートした。

バイクルーズグループの企業理念は「全てにおいて人ありき」、従業員はパートナーと呼ぶ。しかし、顧客価値の向上を担うパートナーからは「業務が

実績があるオリンピックシステムズをプロジェクトのパートナーに選んだ。

特徴的なことは、窪田取締役とオリンピックシステムズユーバ事業部事業開発1グループの西岡大輔グループリーダーをそれぞれリーダーとして、両社がプロジェクトチームを組んで推進していることだ。13年12月から業務の現状ヒアリングを行い、これを踏まえMDプロセスをチェックし、ブランド責任者とともに課題を整理し、優先順位を決めた。オリンピックが長年アパレル企業をサポートしてきた経験からアパレルMDのモデルを確立していることがここで力を発揮する。この課題を踏まえてあるべき業務フローを作成し第1フェーズを終えた。

第2フェーズは店舗のフェイスに合わせた定量的計画を立案する業務設計、つまり52週MD計画(手法)を作る。「ヒアリングを通じてできた両社の信頼感」(窪田取締役)が第2フェーズへのプロジェクト継続を後押ししたという。また、抽出された課題解決には、フェイス設計や52週MD組み立て方などオリンピックが持つノウハウが欠かせないものもあった。これらを踏まえて、「ジャーナルスタンダード・レリウム」(JSFワークス)でも業務プロセス標準化の最初のステップであるヒアリングが始まった。

先行2ブランドの第2フェーズは15年1月に終了しその後、実行フェーズに入る。オリンピックシステムズはMD支援システム「MDDS」の実績管理・単品計画管理モジュールの導入を提案しており、検討中だ。

多い、残業が減らせない」といった声も聞かれた。グループの顧客価値向上の取り組みを管理・運営するCS推進室を統括する窪田光平バイクルーズ取締役は「経営環境は大きく変わったが、業務の内容は大きくは変わっていない。組織、個人の仕事の仕方が違っているのではないか」という命題を確認する必要があったという。そこで、こうした調査・コンサルティングに